

令和2年度 世田谷区立希望丘小学校 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立希望丘小学校
学校関係者評価委員会
委員長 藤原桂子

○回収率

児童 98%(1～6年生) 保護者 91%(1～6年生) 地域 44%(回収 25 配布 57)

○評価方法

- ① 児童・保護者・地域のアンケートを実施した。評価はA（とても思う）B（思う）C（あまり思わない）D（思わない）E（わからない）の5段階とした。
- ② A+Bを肯定的評価とし、C+Dを否定的評価とした。A及びDに重み付けをする本校独自の方法により、評価の精度を上げる工夫をした。肯定的評価をベースに評価したが、否定的評価・分からないが15%以上の項目については個別に検討した。（小数点以下四捨五入）
- ③ 今年度から新学習指導要領が全面実施され、評価項目が改訂された。そのため、経年変化を読み取ることができなかつたので、アンケート実施にあたり次のように対応した。
児童のアンケートについては、5、6年生については教育委員会が定めた評価項目としたが、1～4年生については、キャリア教育の項目を除き、他の項目は分かりやすく書き直したアンケートを独自に作成した。保護者と地域の方には、「一人一言」用紙を添付した。新型コロナウイルス感染による影響についても、自由に記述していただいた。
- ④ 初めに重点目標について評価し、次に教育ビジョンについて評価した。
- ⑤ アンケートのほか、学校の自己評価、配布物、ホームページ等を資料とし、学校公開・運動会等を参観し、総合的に評価した。

○総合所見

本校は3年前から、体育館の耐震工事、本校舎の工事、給食室の改築工事、増築棟建築等、多くの工事が続いてきました。本来なら、今年度は新校舎が竣工し、通常の学校生活に戻れる年でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言で、自宅待機や感染予防策を講じた生活が始まりました。学校は児童の学力低下をきたさないよう工夫を重ね、保護者も協力を惜しみませんでした。これは第三波を迎えた今も続いています。

こうした中で、評価委員会は、評価アンケートを通じて保護者・児童・地域の皆さんの声を聴き、学校の姿を明らかにし、課題を学校に伝える役割を果たしたいと考えました。

今年度の評価には、もうひとつ大きな変更がありました。新学習指導要領の実施に合わせて、評価項目が全面的に改訂されました。本委員会では、学校が新型コロナウイルス感染の中で、教育目標に向かってどのような工夫をしたのか、という点にも留意しました。

総合所見としては、新型コロナウイルス感染の中にあって、児童と先生方の信頼関係を基盤に、学校が可能な限りの教育活動を続けたことを評価したいと思います。先生方は、今まで以上に研修を重ね、とりわけ学年間の連携を強めて、集団で対応する工夫を重ねられました。

学校公開などの機会がなく、保護者や地域の皆さんは、教育現場に直接触れる機会が少ない一年でしたが、新型コロナウイルス感染の第一波が落ちついたタイミングで実施した運動会は大きな成果を上げることができました。保護者は、そのような学校の努力を高く評価しました。

また、休み時間には元気に校庭を走り回る児童の姿が見られ、87%もの児童が「学校は楽しい」と答えています。こうした中で、新型コロナウイルス感染への不安を持つ児童への配慮も、また今まで以上に取り組んでいただきたいと思います。

重点目標については、今年度から「数値目標」の設定がなくなりましたが、肯定的評価 80%を目安と考えました。この観点からは、概ね目標を達成することができたと考えます。

一方、課題もあります。保護者は、休校に伴い「学習の遅れがないように」と気にかけていましたが、それに対する学校の説明が十分であったか、ということです。

オンライン授業への保護者の関心の高まりは、今年度の大きな特徴です。「世田谷区は IT 機器を駆使すると言っていたが、タブレットが十分にいきわたっていないのでは」「授業で生かされているのかわからない」などの声も寄せられています。

今年度は保護者への説明の機会が少なかったことは理解できますが、それに代わる説明の努力は十分だったといえるでしょうか。今後はさらに丁寧に説明を重ねてください。

新型コロナ感染は次年度も続くことと予想されます。学校が保護者に情報と方針をしっかりと伝え、一層の信頼関係を築くことを期待します。

○重点目標に沿った評価

重点目標 1 学力の向上及び授業力の向上

「豊かな知力の育成：主体的な学習活動を大切にし、思考力や表現力を育てる」

本校では従来から校内研修が重視されており、5 分間研修など短い時間の研修も盛んである。日々の努力が授業力向上に活かされていると考えられ、児童は「学校は楽しい」(87%)、「目標をもって努力している」(80%)と答えている。

重点目標 2 思いやりの心の育成

「豊かな人間性の育成：思いやりの心をもって行動できる子どもを育てる」

本校では、ひとりひとりをかけがえのない人間として認めあえる共生社会を目指すために、「ルールを守ること」や「あいさつをすること」を重視している。「学校のルールについて考えて行動している」は児童 82%、保護者 79%であり、「あいさつ」に関しても児童 84%、保護者 82%が肯定的評価をしており、概ね目標を達しているといえる。一方、「相手の気持ちを考えた言葉遣い」は児童 76%、保護者 73%とやや低いので、今後の取り組みを期待したい。

重点目標3 体力維持・増進

「健やかな身体の育成：健康な体づくりに心がける子どもに育てる」

本校では、体育の授業と業間運動の工夫・改善をするために、持久走など、体力の向上に努めている。児童も保護者も、「体力や健康な生活に取り組んでいる」の評価が80%を越えている。とりわけ児童の「体を動かすことは楽しい」は90%に届く高い評価となっており、「好き嫌いをなく食べる」も児童79%、保護者85%あって、概ね目標を達しているといえる。

○教育ビジョンに基づく評価

① 学習指導について

新学習指導要領では、児童の話し合いや発表を重視するが、「授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価が児童は89%、保護者は84%と、ともに高い。IT機器の利用面では、「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価が、児童では79%に対して保護者では44%で、格差が際立った。保護者が実際に授業を見る機会が少なかったため保護者の理解が図れなかったことが影響していると思うが、理解を得る方策が求められる。

今年は学力調査も、実施されなかった。保護者の「本校の教育活動に満足している」は、昨年度から14ポイント下げて72%、「授業の内容を意欲的に学ぶために工夫している」も76%と評価を下げた。これらは昨年まで評価が高かった項目である。新型コロナウイルス感染下でも9月以降の授業時数は通常と変わりなく行われていることを繰り返し伝えるなど、保護者の理解を得る手立てが求められる。

宿題については、児童の「家庭で宿題やその他の学習をしている」86%に対し、保護者の「家庭で自主的に学習をしている」74%（否定的評価25%）、「自ら進んで宿題をする子に育っている」73%（否定的評価23%）と評価が分かれている。

「算数の少人数制」は、肯定的評価が児童83%、保護者も82%と、学習効果が認められている。他方で、読書については、児童の肯定的評価が、昨年度から7ポイント下げて69%（否定的評価27%、特に3年生が35%、6年生が42%）、保護者は4ポイント下げて67%（否定的評価29%）となった。

② 生活指導

今年度からルールについて児童に考えさせるよう、学習指導要領が変わった。児童の「先生は、学校のルールを児童に考えさせて指導している」85%、「私は、学校のルールについて考えて行動している」82%（ただし6年生と2年生の否定的評価が多い）、「先生が指導したルールについて理解できる」88%と、児童は前向きに評価している。保護者も、「教員が指導したルールについて子どもが理解している」81%、「学校のルールについて子どもに考えさせる指導をしている」79%と、先生の指導を評価している。

③ 行事

今年度は学校行事の開催が難しかったが、教員が工夫をして開催したものもあった。秋の運動会

は新校舎に敬老席を設けるなどの工夫を重ねて実施した。「学校行事は、楽しい」は児童 91%、保護者 95%、「達成感」は、児童 86%、保護者 94%、「子供の意欲」については、児童 87%、保護者 90% が「大切にしている」と高く評価している。地域も「充実している」が 84%、「地域への配慮がある」は 95%と高評価である。

希望っ子班活動については、児童の 78%が大切と評価しているが、否定的評価が 17%、特に 3 年生が 20%、5 年生が 34%と、評価が低い。その理由を分析し、対策を講じていただきたい。保護者は 80%が「希望っ子班活動は大切である」と答えている。児童数の増加の中で、どのように本校の伝統的な活動を継続していけるか、検討していただきたい。

④ 学校運営

保護者の「学校の重点目標が明確である」が昨年度から 5 ポイント上がって 87%になり、地域の評価は 100%であった。地域の「学校運営委員会が役割を果たしている」は 80%であったが、「学校協議会・合同学校協議会が役割を果たしている」は、肯定的評価は昨年度から 17 ポイント下げて 68%（否定的評価 16%、「分からない」16%）であった。どのように学校運営をしていくか、保護者や地域への説明が一層求められている。

⑤ 教職員

教職員への信頼度は高く、「ていねいに指導してくれる」は児童 93%、保護者 85%、児童の「授業の内容を意欲的に学ぶために工夫している」は 89%、保護者の「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」は 85%と高い評価である。他方で、「子どものことを相談しやすい」は児童が 80%、保護者が昨年度から 5 ポイント下げて 79%（否定的評価 16%）となっていることに留意したい。「一人一言」欄でも、「先生との面談の機会を多く」との声があった。

⑥ 広報・情報提供

保護者の「学校だより・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」は昨年度から 7 ポイント上がって 93%と高評価であるが、「学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」70%（否定的評価 21%）、「ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」は 69%（否定的評価 22%）と低い。地域の「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」は 76%、「分からない」が 16%であった。ホームページへの保護者の期待は大きい。要望に応えると共に、学校としての考え方を示していく必要性もさらに高まっている。

⑦ 地域との連携

保護者の「地域の人や施設を教育活動に生かしている」が昨年度から 6 ポイント下がって 71%、分からないが 19%であった。今年度は新寺子屋を除いて、「地域の昔話」や「船橋小径の会」等の授業協力が行われず、地域の方と触れ合う機会が減ったためと考えられる。また、保護者の「本校は地域の活動に協力的である」が昨年度から 14 ポイント下げて 68%（分からない 22%）、「地域に情報を提供している」53%、「分からない」31%と低くなった。原因を探り対策を講じていただきたい。

一方、教員も地域との連携の機会が薄れ、地域協力者をどのように得て行ったらいいのか模索している現状がある。新型コロナウイルス感染下にあっても、地域との繋がりを維持・活用する工夫が必要である。

⑧ 船橋希望学舎

「区立中学校に関する情報提供」について、児童は 49%（「分からない」27%、否定的評価 24%）、保護者は 63%（否定的評価 21%、「分からない」16%）と低い。児童の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある」が 38%（否定的評価 37%、「分からない」25%）、保護者の「学び舎による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」が 48%と低い。学舎の活動として小中合同の職員研究会等が実施されているが、保護者・地域からは見えにくい。また、中学校と連携した「あいさつ週間」は、今年度は感染予防のため実施されなかった。

⑨ 学校への意見の伝えやすさ

地域の「学校へ要望や意見を言いやすい」が 88%、「学校はいつでも来校者を受け入れる雰囲気がある」が昨年度から 6 ポイント上がって 96%と高い評価を得ている。「学校は要望や意見にすばやく対応している」は 80%だった。多忙な中での対応は高く評価できる。継続していただきたい。

⑩ 学校の安全

増築工事などで、校舎の安全面への関心は高い。保護者の「安心・安全な学校づくりを進めている」が 89%、「避難訓練やセーフティ教室など、子どもに安全に関する指導」が 93%と高評価である。「自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」は、75%であった。

「地しんなどの災害や新型コロナ感染防止について、どうすればよいかわかっている」については、児童が 86%、保護者は昨年度から 10 ポイント上がって 88%と高評価である。

一方、地域の「学校はコロナ感染防止について、努力している」は 79%だった。新型コロナウイルス感染対策を十分に取り組んでいることについては、地道な発信を続けていただきたい。

⑪ キャリア教育

キャリア教育は、新学習指導要領実施に伴って、今年度から加わった評価項目である。「目標をもち、実現に努力」については、児童が 80%に対し、保護者が 69%（「分からない」20%）と評価は低い。「生き方や将来について考える」は児童が 62%（否定的評価 23%、「分からない」15%）、保護者が 49%（「分からない」36%、否定的評価 15%）である。

キャリア教育はスタートしたばかりであり、児童、保護者とも戸惑いが見られる。「一人一言」欄でも、「ロイロノート」を評価する声がある一方、「使い方が分からない」などの声もあった。キャリア教育で求められているものは何だろうか。今後は学校が中心になって、教員、保護者、地域の人々と共に考えを深めていただきたい。

（学校関係者評価委員会 藤原桂子 松園伸子 岡崎宏 勝村静子 浦五月 中山奈美）